

子どもも寄席

今から40年ほど前に、テレビがふつうの家庭に生まれ始めました。それまでは、どの家でもラジオ中心の生活でした。ラジオでニュースを聞いたり、歌を楽しんだりがあったりまえの世界で、映像は映画館に足を運ぶしかありませんでした。

小学生のころ、よくラジオで落語を聞きました。ワンスの上にラジオがあり、寝るんでワンスの中段に足をのせて聞いていました。先代の三遊亭金馬をよく聞いていて、今でもモノマネができるくらいです。

イメージぶくらまそう

小学生でも落語を聞いて笑える、それもラジオという耳からの情報だけで笑えるというのは、どういふことでしょうか。それはごとは、話を聞き、自分の頭の中でそれを消化して、想像するといふことができたからなのだと思います。春夏秋冬それぞれの町のたまたま、登場してくる老若男女の生活、はてはイヌ・ネコ・キツネ・ウマなど動物のかわいらしさなどが、自分の世界の中にひろがっていったのでしょう。また使われなくなった道具やことばも出てきたのですが、たとえ実体とは違っても、何となくイメージできたのだと思います。

現在は、テレビ、映画、パソコンゲームなど画面の刺激がもたらされていて、どれもこれも答え（結果）が示されています。扇子と手ぬぐいだけという小道具だけで演じられる落語に拮して、自分自身のイメージをぶくらませてみませんか。



紙切り 林家正察

基本番組例

- ◎寄席ばやしの実演と解説
- ◎落語
- ◎紙切り
- ◎落語
- ◎大神楽曲芸
- ◎落語

※ご希望により番組変更可能です。